

■子どもゆめ基金助成活動■ JBBY 50周年連続講座「日本の国際アンデルセン賞作家たち」第1回

## 時代の寵児 安野光雅の世界

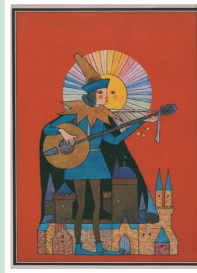
—美術館の仕事から学んだ  
安野本の面白さ—



①



②



③



(撮影：廣石修)

- ① 『旅の絵本』の第1作「中部ヨーロッパ編」表紙絵
- ② 「春が来た」「歌の絵本(1) -日本の唱歌より」表紙絵
- ③ 「カナリア王子」表紙絵

【日時】 **5/18 (土)**

14時～16時 開場 13時30分

【講師】 **廣石修**

(元 安野光雅美術館副館長)

【会場】 ① 出版クラブビル・会議室 / 対面

東京都千代田区神田神保町 1-32  
「神保町駅」A5出口より徒歩2分

② オンライン

※見逃し配信はありません

【定員】 ① 50人 ② 50人

※申込先着順・高校生以上参加可

【参加費】 ① 1,320円 ② 990円

※入金後の参加者都合による  
キャンセルの場合は返金できません

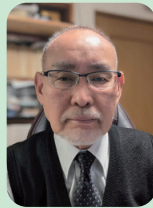
【協力】 安野光雅美術館

絵本『ふしぎなえ』（福音館書店・1968）で、衝撃的なデビューをした安野光雅（1926-2020）は、読者を錯覚の喜びに誘うだまし絵の絵本をはじめ、文字や数の絵本、『繪本 平家物語』（講談社・1996）や『繪本 三国志』（朝日新聞出版・2008）などの歴史絵巻とも言える絵本、そして、ライフワークであった『旅の絵本』シリーズ（福音館書店・1977-2022）など、多彩な絵本の数々で、ずっと私たちを楽しませてくれました。その活躍は、まさに日本の絵本が大きく花開いていく時期。時代が安野さんを求めていたと言えます。そうした業績に対して、1984年、国際アンデルセン賞画家賞が贈られました。

故郷・津和野に、安野光雅美術館が開館したのは、2001年のこと。今回は、準備段階から安野さんの傍でともに時間を過ごしてきた同館の元副館長・廣石修さんに、絵の魅力、絵本・本の魅力、そして、企画、絵と文の創作、デザイン、レイアウト、印刷技法までを行う、まさに、ひとり出版工房とも言えるような安野さんの仕事ぶりをお話していただきます。

津和野はもとより、国内のスケッチに同行する機会も多かった廣石さんにだけ見せた、安野さんの素顔をお話いただくのも楽しみです。

### ◆廣石修プロフィール◆



島根県津和野町生まれ。  
元・安野光雅美術館副館長。現・森鷗外記念館研究員。  
津和野町役場教育委員会の職員として、森鷗外記念館、桑原史成写真美術館、安野光雅美術館の建設に関わり、美術館建設計画の段階から安野さんと親交を深め、同館開館後、副館長として、研究とともに、作品保護のため、自ら、デジタル技術を研究し、安野作品のアーカイブを進めてきた。  
現在、安野光雅書誌・著述総目録の編纂、森鷗外初版本の総目録の編纂に取り組んでいる。

詳細・お申込み

外部サイト「peatix」からお申し込みください。  
クレジットカード決済、振り込みが可能です。  
<https://jbbyonline047.peatix.com/>

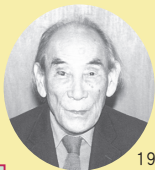


### ◆◆◆ JBBY 50周年連続講座 今後の予定 ◆◆◆

●第2回 6/8 (土)

まどさん、まどしてる

講師：市河紀子  
(フリーランス編集者)



1994年 作家賞

●第3回 7/21 (日)

絵本画家赤羽末吉の

誕生とその頃

講師：赤羽茂乃  
(赤羽末吉の研究者)  
荒川薫  
(元福音館書店編集者)  
協力：福音館書店



1980年 画家賞

●第4回 9/14 (土)

世界のしらべ 物語の灯り

講師：上橋菜穂子  
(作家)



2014年 作家賞

●第5回 10/5 (土)

物語は水平線をこえて

講師：角野栄子  
(作家)



2018年 作家賞

◆お願い◆ この活動では、子どもゆめ基金への報告のために、参加者の写真を撮影させていただきます。子どもゆめ基金に提出した個人情報(写真)は、「(独)国立青少年教育振興機構が保有する個人情報の適切な管理に関する規定」に基づき、子どもゆめ基金助成業務以外の目的には使用されません。なお、会場の遠景写真(参加者は後ろ姿のみ)を、主催者広報用にHPやSNS、刊行物等に掲載することがあります。

